

入試分析 英語

【出題内容】〔全23問 1問4点(大問2の3(2)のみ12点)〕

設問数・形式・配点に変更なし。文法の独立問題は出題されず、読解問題が中心なのは例年通り。リスニング、図表を絡めた複合問題(対話文・Eメール・条件英作文)、対話文読解、物語文読解の計4題。

1 リスニング問題〔全5問 1問4点 計20点〕

短い会話文の3問と、スピーチの2問という形式は昨年と同じ。1回目であらずじと問題、2回目で解答となる内容を聞き取れば全問正解できる。難易度は高くないが音声のスピードは速め。また問題BのQ2の記述問題は正答率が低いので、正解して他の受験生に差をつけたい。秋に開講するリスニング講座や過去問で耳を慣らしておこう。

2 図表を絡めた複合問題〔全4問 英作文のみ12点、他1問4点 計24点〕

形式・難易度とも例年通り。図表と会話文の問題は難しくない。条件英作文は「自分をもっと練習したいもの」を紹介する問題。practice more「もっと練習する」とあるので、普段行っていることをテーマにする必要がある。まず問われている質問に答えて「どんなことをする練習をしたいか」、そして「ふだんはどうか」「練習をしたらどうなるのか」といった内容を英語で表現する力が必要。また簡潔に書くことも大切。基本的な作文力は習得しておきたい。

3 対話文読解〔全7問 1問4点 計28点〕

形式は例年通りで難易度も平易。登場人物の発言の真意や理由を問う問題が5題、本文内容に関する問題が2題の計7題。前者の5題は下線が引かれているが、基本的には指示語の指す内容がわかればよい。後者の2題も単純な設問だが、話の展開を大まかにとらえながら読んでいないと解くのにやや時間がかかってしまうので要注意。

4 物語文読解〔全7問 1問4点 計28点〕

形式・難易度とも例年通り。下線部の「do that」の内容を問う問題、選択肢を本文の時系列に合うように並べ替える問題、本文内容に関する問題が5題の計7題。大問3と異なり本文に下線が引かれている問題が1題しかない。あらかじめ設問を読んで問われる内容を確認してから本文を読み進め、その場面に差し掛かったら問題を解くことで解く時間を短縮したい。

100点満点も狙えるが、簡単でも油断は絶対に禁物。入試直前まで謙虚に学び続けることが大切だ。

実際の問題にチャレンジ! 大問2 自由英作文問題

2 3-(2)

You asked me, "Do you have something that you want to practice more?" I'll tell you one thing.

この文に続くメール本文を、条件に合うように3つの英語の文で書きなさい。

条件① 前後の文につながるように書き、全体としてまとまりのある返事のEメールとすること。

条件② 伝えたい内容を一つ取り上げ、それを取り上げた理由などを含めること。

解答例

I want to practice basketball more.

Actually, I am not good at passing the ball.

But I really like basketball, so I'll do my best.

※中2の教科書本文を参考に作成した解答例。中3でなくても作文の対策はできる。早めに始めておこう!